

令和4年度自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成</p> <p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 「地域探究の時間」の発展・充実</p>
---------------------------	--

<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上</p> <p>2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的な生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実</p> <p>3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上</p> <p>4 「地域探究の時間」の発展・充実</p> <p>5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応</p>
-----------------	---

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和3年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	<p>○ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。</p> <p><指標> 1年:全員が具体的なキャリア目標を1つ以上掲げる。 2年:3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年:具体的な進路先について志望理由を明確にさせ、進路実現する。</p>	<p>○入学当初は進路目標が不明確な生徒が目立つが、総合的な探究の時間(地域探究や進路探究)やLHRを通してキャリア目標が明確になる生徒が増える一方で、進路目標が明確にならない生徒が若干見られる。</p> <p><R3実績> ・1年:多くの生徒が具体的なキャリア目標を1つ以上掲げることができた。 ・2年:3つ以上の進路候補を掲げることができた生徒3割程度であった。 ・3年:具体的な進路先について志望理由を明確にし、ほとんどの生徒が進路実現できた。</p>	<p>○「地域探究の時間」を基軸とし、地域や社会の担い手となる自覚を促し、そのための自己実現につながるキャリア目標を設定させる。</p> <p>○ボランティア活動を奨励し、地域とのつながりを体験することを通して将来の生き方・在り方を考えさせる。</p> <p>○進路志望調査をもとに、生徒一人ひとりの進路目標の変化を把握するとともに、進路検討会において情報の共有とキャリア目標を実現するための個々にあったアドバイスを検討し、面接週間だけでなく模試の前後など機会をとらえて担任面接や教科面談を行う。</p> <p>○多様化する入試制度に対応するための教員研修を実施し、教職員の進路指導力向上に努める。</p>	<p>○年度当初にあげた指標の取り組み状況は以下の通りである。 1年:学部・学科調べを行うとともに、自己理解を促し、適性を判断させ、ほとんどの生徒がキャリア目標を1つ以上あげている。 2年:半数程度の生徒が具体的に進路候補をあげているが、3つ以上あげている生徒は少ない。 3年:就職希望者は志望理由書を完成させ、面接をはじめとする就職試験対策を行った。進学希望者は、入試形態と入試日程に合わせ、志望理由書の作成に取り組み、受験対策を行っている。</p>	B	<p>1年:県内大学や環太平洋大学研修、文理選択、進路志望調査を通してキャリア意識を高めるとともに、具体的な志望先を研究していく。 2年:進路候補をあげている生徒は半数程度であり、かつ3つ以上あげている生徒は少ないことから、個別面談や志望理由書作成講座、適性診断、進路志望調査を通して進路意識の向上を図ることで、進路候補を3つ以上あげさせ、比較・調査を行う活動を促す。 3年:学力向上の指導を行っていくことを中心としていく。また、就職希望者をはじめ進学希望者も総合型選抜入試や学校推薦型入試に向かう生徒がほとんどであることから、志望理由書作成を通して志望理由を明確にし、意欲的に面接練習に取り組みさせ、進路実現につなげる。</p>
	基礎学力の向上	<p>○どの生徒も授業を大切にし、主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p><指標> 進研模試・進路マップ(実力診断・基礎力診断)・スタディーサポートで、GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・50%以上 ・2年:3教科総合・・・50%以上 ・3年:3教科総合・・・50%以上</p>	<p>○落ち着いた授業に取り組む生徒が多い中、学ぶ意義が見いだせない生徒が一部に見られる。</p> <p>○授業の予習・復習の取り組みが不十分のために、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が目立つが、考査前には考査範囲の復習や課題に意欲的に取り組む生徒が多い。</p> <p><R3実績> GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・37.3% ・2年:3教科総合・・・19.3% ・3年:3教科総合・・・12.5%</p>	<p>○「総合的な探究の時間」や「LHR」での取り組み、個別面談を通して学びの意義を理解させ、学習意欲を高める。</p> <p>○ICTを活用した探究・発見型授業及び課題配信等をすすめる、生徒の学習への意欲を高める。</p> <p>○スタディサポートの結果から未定着の分野を洗い出し、週末や長期休業の課題とし学び直しをさせたり、スタディサブリの到達度テストの課題や動画・確認テストを計画的に配信することで、家庭学習の習慣付けと未定着分野の補強に努める。</p>	<p>○各学年の前年度末(R4年3月、1年はR4年4月)に行ったスタディーサポート結果(GTZ:学習到達ゾーン)と、1・2年生は7月進研記述模試、3年生は7月進研記述模試または基礎力診断テストの結果(GTZ)を比べ、上昇した生徒の割合は以下の通りである。</p> <p><R4中間実績> 1年:3教科総合・・・20.0% 2年:3教科総合・・・24.1% 3年:3教科総合・・・52.7%</p>	C	<p>○各学年とも生徒が主体的に学習に取り組む授業を心がけ、教科書の内容の理解を促すとともに、計画的な課題を提示し家庭学習に取り組みさせることを通して学習内容の定着を図る。 ○1・2年生は、7月模試の結果分析を行ったうえで、計画的に模試の過去問演習を取り入れ、教科書レベルから模試レベルへの移行を図るとともに、学習リーダー(上位層)の育成に努める。 ○3年生は、授業に加え、放課後課外や学習サークルの活動を通して、受験力の育成を図り、さらなる学力向上を目指す。進路決定後も到達度テストの受験や各種講演会を通して、学習意欲の向上を図る。</p>
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的な生活習慣の確立	<p>○生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。</p> <p><指標> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髪・服装指導対象者数、問題行動指導対象者数が前年度よりも減少している。</p>	<p>○クラス担任、生徒会の協力しながら、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。</p> <p>○指導票の活用とともに、保護者への連絡を行いながら、生徒指導を進めている。問題行動指導対象者は減少しつつあるが、服装検査でくり返し指導を受ける生徒は依然として存在する。</p> <p>○遅刻者数は、2年生、3年生とも、昨年度1年生、2年生に比べ増加した。</p> <p><R3実績> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)は、生徒数の113.6%で前年度より8.4%減少した。 ・問題行動指導対象者数は、前年度よりも23.8%減少した。</p>	<p>○5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰)</p> <p>・遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。同時に家庭連絡を入れ、学校・家庭の連携を図る。</p> <p>・教室や公共の場所からの私物の撤去し整理整頓を徹底し、学習環境を整える。</p> <p>・基礎・基本の徹底、公共マナー・交通ルールの徹底等、SHRや学年集会などでのタイムリーな指導をする。</p>	<p>○クラス担任、生徒会の協力も得ながら、学習環境の整備等に努めた。</p> <p>○指導票の活用とともに、保護者への連絡を行いながら、生徒指導を進めているが、頭髪・服装で指導を受ける生徒が一定数いる。生徒の問題行動では、昨年度より半減しており、落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p><R4中間実績> ・8月末時点での遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)は生徒数の44.7%。(R3 55.2%) ・8月末時点での問題行動指導対象者数は、前年度より55%減少している。</p>	B	<p>○2学期は遅刻者数が増える傾向があるため、服装指導と合わせて、家庭連絡をその都度行い、家庭と協力して対応する。 ○個別指導を通してポイントを絞って指導、説諭することで、5S等の必要性やルール、マナーを守ることを理解させ、徹底させる。</p>
	生徒会活動・部活動の充実	<p>○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。</p> <p>○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ85名(全校生徒の3割)以上となる。</p>	<p>○育英新聞発行時に校則やルール・マナーなどを生徒会として継続して問題提起してきたが、各委員会を生徒が自主的に企画運営することには至っていない。</p> <p>○3年体育コース(35名中)上級学校へ進学希望24名、うち11名が競技継続予定。体育・スポーツ系の上級学校進学者5人。</p> <p><R3実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」・・・95%。 ・県大会優勝9部、全国大会出場8部、全国大会出場者数は延べ136名(約40%)であった。</p>	<p>○各種委員会と協力し、生徒総会での目標を達成するため、執行部のリーダーシップを高める。</p> <p>○行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。</p> <p>○部活未加入者にボランティアサークルに加入するよう呼びかけ、ボランティアなどに参加するよう促す。(体育コース)</p> <p>○スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通し、競技力の向上に繋がっている。</p>	<p>○育英祭に向けては、クラスLHRの回数、各委員会の回数を増やすことで、生徒主体で準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」98%であった。</p> <p>○生徒会執行部の活動を継続して行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めている。(昨年度まで実施していた教室点検は実施できていない)</p> <p>○3年体育コース(17名中)上級学校へ進学希望する生徒は15名おり、その内7名が競技を継続する予定。 ○全国高校総体に陸上・レスリング・ソフトボールが出場した。しかし、上位入賞はなかった。 (R4中間実績) ・山岳部はクライミング競技で日本代表として2名が世界大会に出場した。 ・県大会優勝のべ5部、全国大会出場のべ6部、全国大会出場者数のべ69名。</p>	B	<p>○11月の学校行事である球技大会では、生徒たちが主体となって運営できるように、キャプテン会議を設定し、各種目キャプテンに内容、ルール等が確実に伝わるようにする。 ○後期生徒会が主体となり、教室環境の整備や学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取組を通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識を多くの生徒に身に付けさせるよう促す。 ○部活動未加入者(中途退部者含め)を把握し、ボランティアなど参加するよう促す。 ○部室点検・清掃を実施する。 ○今後の体育コースの取組として、スポーツマッサージ講習会(2年生)、スポーツ栄養講座(1年生)を計画通り実施し、競技力向上につなげていく。</p>

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和3年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。 <目標> 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○育英祭では、実行委員を中心に生徒自身が考え運営委員に周知徹底できるように動いていた。 ○球技大会の新しい取り組みに対し、執行部員が意見を出し合い、クラスに伝達できた。 ○3学年合わせての体育コース集会は実施できていない。 <R3実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」・・・94%	○育英祭などでは、クラスの運営委員にクラス全員で協力できるような方法を徹底させる。 ○執行部員が中心となり、学校行事を企画する。(体育コース) ○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。 ○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。	○育英祭では、ルールを守り、各クラスがよく協力して取り組めた。 ○体育コースの行事については、コロナの影響により、3年キャンプ実習が宿泊なしの日帰り3日間で実施した。大運動会では、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。 ○9月に行われた運動会では、2年生体育コースも集団行動に参加し、協力して実施できた。 ○体育コース集会は4月に開催し、体育コースとしての自覚等を持つように話をした。昨年度に比べ改善がみられる。	B	○今後の行事となる球技大会については、選手決定において話し合いをしながらクラス皆で決定するよう段取りを行う。 ○1年生体育コース環太平洋大学研修を10月に予定しており、上級学校への進学意欲・競技の継続を意識させる。 ○体育コースについては、各種実習(スキー・ゴルフ)でも準備の段階から役割等を持たせ、リーダーとしての責任を持たせる。また、講演会や実習についても計画通り実施していく。 ○体育コース集会は、定期考査前など機会を捉えて実施する。
	安全意識・安全技術の向上	○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 <目標> 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○救急救命講習は、冬季休業中に実施した。 ○「学校生活に関するアンケート」は、1学期に2回(5月・7月)、2学期に1回(9月)、3学期に1回(2月)実施した。その結果は、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。 <R3実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」・・・91% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・89%	○教職員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を今年度も実施し、全員の受講をめざす。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関するアンケート」を今年度も年4回実施し、組織的な対応を図る。	○救急救命講習は、コロナ感染防止対策のため、例年の日程の夏季休業中には実施できなかったため、冬季休業中の実施を予定している。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期は5月と7月に実施し、環境保健部と各学年で情報を共有して、その後の面接指導等に活用した。	B	○今後は、避難訓練等の機会も捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○「学校生活に関する調査」は、今後も各学期に1回を目処に実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、環境保健部と各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。
「地域探究の時間」の発展・充実	「地域探究の時間」の発展・充実	○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。 ○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。 ○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現へつながった。 <目標> 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。	○1年生:まだ探究活動についてのイメージがあやふやで、知識技術ともに身につけていない。 ○2年生:テーマごとのグループに分かれ、探究意欲が高まっているが、自らの問題意識や仮説までははっきりしていない。 ○3年生:2年次の「地域探究」の活動を活かし、キャリア目標に向かって前向きに取り組む生徒が多いが、進路目標が不明確なままの生徒も少なくない。 <R3実績> ・1年生:事後アンケートで、「挨拶する力」・・・63%、「プレゼンする力」・・・36% ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して13%向上した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・46%。 【地元の魅力をたくさん知った】・・・87%。 【地元で働きたい】・・・64%。 【地元で暮らしたい】・・・69%。	○1年生:テキストを使用し、クラス担任を中心に年間を通じて定期的に探究活動を学ぶ授業を行う。 ○2年生:地域の方々と連携しながら、フィールドワークなどの体験とともに、その振り返りを行い、教職員の問いかけ等により、自らの問題意識や仮説をその都度考えさせる。 ○3年生:進路探究の時間や多様な教員との面談を通し、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身の進路目標を明確にさせる。	○年度当初立てた指標に対する取り組み状況は以下の通りである。 1年:年間指導計画通り「地域探究入門」で、課題設定の仕方から調査・探究・まとめ方について学習を進めており、今後フィールドワークも実施する。 2年:年間活動計画通りテーマに沿ってフィールドワークを行い、そこで見つけた課題を整理し、解決法や解決へのアプローチの仕方について調査・研究を行っている。 3年:具体的な志望先を決定し、志望理由書を作成したり、面接対策を行うことを通して2年次に行った「地域探究」を振り返り、学習の成果をまとめている。	A	1年:年間指導計画通り「地域探究入門」を進めながら、フィールドワークも実施しつつ、次年度の「地域探究」に向けた実践力を養成する。 2年:1学期に行った「地域探究」の内容をまとめ、校内発表の準備を行うことを通して、課題解決力や表現力を養い、進路意識を高めるとともに、進路実現に向けて主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 3年:2年次に取り組んだ「地域探究」の内容を振り返り、まとめることを通して、地域の良さを再考するとともに、「地域探究」の成果を入試や就職試験に活用し、進路実現を目指す。
	業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。 <目標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。	○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識するよう働きかけ、時間外業務時間が減少した。 ○部活動において、日頃から生徒が自ら考えて行動するように、定期的に部会をもっている。 ○会議の効率化を図るため、年度当初に各種委員会のメンバーを見直した。 <R3実績> ・年間360時間越えの職員は5.9%(R2:20.8%)	○引き続き、教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識する。 ○行事の実施内容の精査、期間・時間の短縮を図る。 ○部活動の月間計画・実績の提出を徹底することにより、部活動実施のルールを徹底する。 ○各種委員会等の会議について、事前に資料配布し、会議の効率化を図る。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について話題にし、互いの声かけに結びついたり、教職員自身の自覚につながりしているところもあるが、特定の教職員の時間外業務が依然として多い。 <R4中間実績> 4月～9月までで時間外業務180時間を超えている教職員は2.2%。	A
生徒への適切な対応		○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。 <目標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。	○3年生の進路指導(個別指導)を組織的に行う体制作りをすすめるとともに、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにしている。 <R3実績> ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の延べ6人(R2:33人)	○3年生の進路指導(個別指導)を組織的に行う体制作りをすすめる。 ○引き続き、3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにする。	○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。また、昨年度に引き続き、推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。 <R4中間実績> 9月における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数は0人。	A	○時間外業務が特に多い教職員には、適宜、声掛けを行い、時間外業務の実態を把握し、3年生への個別指導を教職員で協力して行う。